

- 「100万回生きたねこ」は私も子供の頃に読んでそのときは、確かによくわかりませんでした。でも小学5年生になってひさしぶりにしっかりと読んでみたらやっと意味が少しわかるようになっていました。
- 私も小さい頃お母さんにいろいろな絵本を読んでほしいと頼みそれをお母さんとお姉ちゃんと私の3人で読み笑ったり泣いたりいろいろなことを知っていった今絵本の1番の魅力は「子供に生きていく中で必要な感情などのことをいちばんちかくで知れることが1番の魅力だと思いました。

感想

やっぱり私は保護者の方たちの感想を聞いて表紙の絵が目立つほどいいと思いました。

保護者の方のこんな一文がありました。「なんといってもデザインの素晴らしさ」私も同じことを感じました。

だから、ポップやポスターも派手で目立つようなものにしたいと思いました。

はらぺこあおむしでも「絵の細かい描写がとても気に入って」とありました。やっぱり思っていることはみんな同じ！

私は、保護者さん達の「はじめてのおつかい」の感想をみて、思い出が多い本なんだと思いました。

「息子、娘がこの本を読んだあとお使いに行きたいと言いだした」とかいていたり、「自分に思い出がある」都会にいる人がほぼほぼでした。この本は、お母さん世代から私達世代まで繋いでくれているので、そこを強調したいと思います。

やはりお家の方目線と、小さい子目線の2つのポスターを作ったほうがいいとおもいます。

読んだ感想は、大人たちは絵本の思い出での思い出はやっぱり子供との思い出で附天小で卒業生の人が昔、学芸会でかいじゅうたちのいるところのげきをやった思い出があったり、はじめてのおつかいで初めてのおつかいをするという思い出があった人もいて人生初のいい経験になったりして人生にも嬉しさなどがわかるのが本かなと思いました

「ぐりとぐら」

- 産まれている時代が違っても、子供の頃に読んでいけば、同じことを思える。

→「ぐり　ぐら　ぐり　ぐら」のリズム感がとても気持ちよい。

- 小さい頃に読んでいたら、今のわたしより、想像豊か

→自分もとても大きいカステラを作りたい

- 小さい頃に読んだもののなのに、おとなになっても覚えているくらい、小さい頃の時の「やってみたい」という気持ちが強かったのかなと思いました。

→そう思わせる工夫がされてある。

- 100万回生きた猫は、赤ちゃんのときじゃなくて、ちょっと成長したときとか、何なら大人になってから初めて読んだという人もいるぐらいで、先生もいっていた通り、やっぱりむずかしいという人もいました。
- 難しいけれども、感動や誰かを好きになるというのを、初めて知ることができる
- popをみて、大人出とったという人もいるから、大人から子供だけでなく大人だけでもターゲットにも入る
- 107冊以上発行されているという50年以上愛され続けこんなに発行されてきたなんてすごいなーとおもいました。
- 確かに難しいけど、小さいときに見せて感動していたというのもあるから難しいけれども、まだわかりやすい。

〈自分の感想〉

- 僕も少し前はじめてよんで、かんどうしました。僕も何個か好きな絵本があるけれど、その中にこの本が入りました。

読んだ感想

すてきな三にんぐみの大人の感想は、疑問をもたせることができることができ、その疑問で興味を持たせることができる。

「本当はいい人だったねー」と心に残っていると言っていたので、確かに三人組は最後に子どもたちにいいことをしたなと思いました。

それにこの物語に引き込まれるようにと書いていたことでたしかにこのお話に引き込まれるなと思いました。

どのお母さんも、自分が子供の時のことや、今の時代の子供わ絵本についてもかいてくれていたのによかったです。

どのようなことかというと、今の子供だったらこうだけど昔の自分だったらこうと書いてくれていたのですごくわかりやすかったです。

だから他の今はやている本だったらどう思うかも聞きたいです。

感想

はらぺこあおむしだとやっぱり、絵に関する印象が多かったです。絵の塗かたがとても上手なんだろうなと改めて思いました。そして寝ない子だれだでは、この本を読むと寝てくれるし持ち運びに便利というのもあって人気だなと思いました。あと納得したのはおおきなかぶでは「うんとしょ、どっこいしょ」のとき、声のトーンを変えていたということです。私の
お父さんも声のトーンを変えていたのを思い出しました。

すてきな3にんぐみは、背景が特徴機で
色や影からは「悪」というイメージが持た
れるけど本当の3人には「優」が有り、な
んの意味もなく周りの人に攻撃までして集
めたお宝をを身寄りのないこども達に
使ってお城を立て皆を幸せにするので教育
にも心の育ちにもつながると思いました。
読んでみると、最初は怖い！と思うかもし
れないけど読み終わる頃には心も成長して
優しさの芽が映えるのではないかと思いま
した。

ぼくは、このアンケートをみてそれぞれの絵本の掛け声や、主人公の気持ちや考えが表れている言葉が印象に残っているんだなと思いました。例えば、ぐりとぐらだと「ぐり、ぐら、ぐり、ぐら」の掛け声があってそこから楽しそうにしているということが読みとれる掛け声で、他にも掛け声ではなくても100万回生きたねこだと文章から「幸せや喜びを知るとともに悲しみを知る」ということをかいていて、読めば読むほどほんとうの意味がわかってくるということがわかります。他にも、子供に読んであげたあと何度も「読んで、読んで。」と言われたということを書いている人も多くてポップやポスターには印象に残る場面や印象に残る言葉を入れたほうがいいなと思いました。

感想

私はぐりとぐらの感想を読んでみて感じたことは、子供の頃はみんな絵に興味をもっていると思いました。だから、ポップ作りなどでも絵本の絵の方をメインにしてすればいいかなと思いました。その中でも、やっぱりかすてらをメインにしたらいいいのかなとも思いました。他にも、絵本は意外と読んで終わ리と思っていたけど、次へ次へと受け継がれていられるのかなと思いました。だから、心に残るようなポップを作ればいいと思いました。世界に入れるんじゃないかという気持ちをみんなやっぱり持っていると思いました。実際私も、世界に入れるんじゃないかなと思ったこともありました。結局は子供はみんな絵や世界観に惹かれるのかなと思いました。

感想

私達がまだ見つけていないメッセージも込められていることがわかりました。100万回生きたねこの本を読むと、目をキラキラかがやせて、本を読んだというエピソードがあり、そんなにも100万回生きたねこを読んでほしいという感情がわかりました。だから、100万回生きたねこの本には読む人にしっかりとつたえたいとおもいました。そして、100万回いきたねこの本を読むと、その登場人物の100万回いきたねこの気持ちを讀み取れることができ、気持ちを考える事ができるという素晴らしいこともできることがわかりました。

「100万回生きた猫」の意味というのは、愛するといふのだと考えている人が多いことがわかりました。そして、精一杯生きることが意味だと考えている方もいました。大人でも手にとってくれるひとに感激です。難しいからこそ良いといふのもある事がわかりました。でも、猫の気持ちも考えることができる事がわかりました。子どもでもどんどん読んでいくうちに意味がわかってくるのかもしれないと思いました。わたしは、お母さんが書いていたように、100万回生きた猫の本を私が産まれる前におばあちゃんが買ってくれたそうです。おばあちゃんがなにかの意味があって買ってくれたのかもしれませんが。

感想

私は「すてきな三にんぐみ」担当なので「すてきな三にんぐみ」の感想を読みました。特に心のなかに残ったのは3ページ目の方の話です。「物を持つことよりも人と一緒にいることに価値を見出していく」という部分に納得しました。私がこの本を読んだときは悪いことをした人たちが良いことをしてこういうことをみんなもしてみよう的な軽い気持ちで解釈していましたがこの人の文章をみて確かに人はこれが欲しいとか短時間で感じた気持ちとか欲望とかで動いてるけどそういうことじゃなくて今一番大切（一緒にいたい）だと思える人といっしょにいたほうが自分的にも良いんだよということをこの本は伝えたいんじゃないかなと思いました。（書いてくださった人の思っていることとはちょっと違うかもしれないけど）そして「すてきな三にんぐみ」という本はなにか過ちを犯してしまったかもしれないが、それを認め改心することが大事ということを伝えたかったんじゃないかなと思いました。

感想

私が保護者の方の、絵本を読んでみて感じたことは、授業でやったように、お母さん・お父さんが買うことが多いということです。「はじめてのおつかい」では、子供がお使いに行きたがったということを書いている保護者の方がいらっしゃいましたが、私もお母さんに「はじめてのおつかい」を読んでもらって、私もお使いに行きたいとお母さんにせがんでいました。私は幼稚園のとき、「ぐりとぐら」が1番お気に入りの絵本で、お母さんに何度も、「読んで～」とせがんでいました。私は、お母さん・お父さん・その本を読んでもらう子供・おじいちゃん・おばあちゃん、全員をひきつけるようなポップ・ポスターを作りたいです。

感想

僕は保護者の方のエピソードで「黒や影は冷たくて、怖い、悪いものと表現されやすい中、黒や影のイメージが一変する絵本です。」ということで保護者にも好まれているんだなと思いました。なので本を売るにも大人の方が気になるような戦略がいいと思いました

お母さんたちは僕達は小さかったからあんまり覚えていなかったから知らないところでそんなに読んでくれていたとゆうことにびっくりしました。

毒たちは絵本などで勇気をもらっていたとゆうことにおどろきました。

ぐりとぐらは子供でも大人でも読める特別な絵本の1つなので、気がむいたときにすぐに読めてしかも大人も絵本の中に見入ってしまうような絵本の絵の良さやかわいさを持っているのでこの良い特徴をポスターに入れるととても良く仕上げることができるのではないのかなと思いました。またぐりとぐらの歌のリズム感をポスターに詰め込んで大人の思いと子供の思いを伝えることができたならこのアンケートに答えてくれた大人の人たちへの感謝にもなるのではないかと思いました。

保護者の方たちはこの色、絵などに加えて昔の思い出を思い出してくれて喋ってくれて面白かったし、何度も読み聞かせしてくれて親子関係も築けるし子供が集中したり、興味がたくさん湧き出て、子供の好奇心の原動力になり、美しいとおもいました。そして、子供にも読みやすいということをもチーフにしているのもいいと思うけど、100万回生きた猫のように感動系の作品もたくさんあり、あらゆる分野でかたつけてくださったのでヒントにしていけます。

[感想]

保護者の人たちが小さいときの思い出をたくさん読んでいるうちに、色々な「絵本」の役割が分かってきました。絵本は、読んで楽しむだけのものだとおもっていたけれど、今考えれば絵本はよんで思い出を作って後世に伝えて、残していくものだという事が今回の授業、保護者の人たちの思い出話をよんで感じて、思ったことです。

『保護者の方のエピソードを読んだ感想』

子供と大人でそれぞれ感じることは別ですが、子供の頃（私達が幼稚園や小学1年生の頃）感じたことと今読んで感じたことを比較してポップやポスターを書いていったらいいんじゃないかな、と思いました。

また、大人の方は小さな子でもわかる、でも大切にしてお母さん、お父さんにとって思い出のある本がいいんじゃないかなと思ったので、一生の絵本のような感じでキャッチコピーを書いたらいいんじゃないかなと思いました。

はらぺこあおむしで「色」がきれいだという感想がたくさんあったので、ポップやポスターに書くときはその絵本のテーマカラーを元に文字をどんどん乗せていったらいいんじゃないかな、と思いました。

100万回生きた猫ではずっと読める絵本なので大人のエピソードもあるし、子供との思い出に強く関係しているんじゃないかなと思いました。それに、大人になってから読んで、それでも感動できる絵本なんだから、そのようなこともポップやポスターにかけばいいんじゃないかなと思いました。（舞台化されているなんてすごい！そのこともポップやポスターに書いたらいいんじゃないかな？）

おいしいのぼうけんでは、小さな頃においしいれに入って落書きなどをして遊んだエピソードなどがたくさんあったので、実際に遊べる絵本として紹介してみたら面白いんじゃないかな、と思いました。

感想 1 0 0 万回生きた猫

1 0 0 万回生きた猫で中身の詰まった人生をすごすしてほしいという願いというものがあつた。確かに猫は有意義な人生を過ごすことの大事さ伝えるのと複雑な感情を理解してほしいという願いもあつたのかもしれない登場人物推定 1 0 0 万人超と数百年過ごしたとしても中身の詰まった人生のほうが長いことがよくわかつた

結構おもしろいのぼうけんと百万回生きた猫は感想で大人になっても楽しめたということは結構意味が深くて子供のときに読んでみたときに思った感想とおとなになってからの解釈がちがうということだからpopのときにも買うのは大人だから大人が懐かしくなるようなpopの作りにして買ってもらえればその人の子供が読んで、またその子が大人になったときに懐かしくなって買うといういい循環が生まれるらそういうものをかけばいいとおもいました。また、大人になったときはいろいろな解釈ができるところの意味の深さがいいとお待ったからそこを狙い目にしてお客さんに買ってもらえればいいなと思いました。

「かいじゅうたちのいるところ」の保護者の方の感想を読んで、たしかに、今まで忘れていた保育園時代のことを絵本によって思い出せることもあるということが気付かされました。また、何回も何回も繰り返し読むことによって何回読んだかのかわからなくなる用になり、今でもそれだけは覚えているという人もいました。子守唄にして歌ったりしてアレンジしてみてもいいなと思いました。お店で本を宣伝するときも、読み聞かせコーナーなんかも作っていいかなと思いました。また子育てなどしていて、こんな本を読んであげたいという人にプレゼントする用のカテゴリー分けなので、「子育てをしている君へ」とか、「子供が絵本を読みたいといった君へ」とか、（あとの方は文章がおかしいけれど）そういった子育て系のかてごりーをつくってもいいのかなとおもいました。

大人から人気のものもあり、絵本は聞く人だけ楽しめると思っていたけど、読んでいる人もワクワクするとしり、子供に読んで子供への影響力があるものや、子供のときに読んでもらって印象が強いものや、人のことについて学べる絵本だったり「絵本」という身近なものでいろいろな事ができると思い、自分が大人になったらほんを読んであげようと思いました。

[かいじゅうたちのいるところ]

私が大人たち（保護者の人たち）の感想を読んで思ったことは、大人と絵本の出会いというのを大切にして何回も読んだ人もいてやっぱり大人たちの印象にも残っているということが、絵本の語り継がれていっている理由なのかなと私的に思いました。私は保育園の年中のときに「かいじゅうたちのいるところ」の怪獣の役をやったので、劇をやった頃の自分を思い出すことができました。

親が、子供の時にした事を今の
子共にして、私が、担当している百万回
生きたねこは、まだわからない子供におじい
ちゃん、おばあちゃんからくれた絵本で、小
さい子供にはまだ意味はわからないけれど、
何か伝えたかった事があるということがわか
りました。

保護者の方のエピソードの中ですごく心に
残った言葉があって、一度きりの人生精一杯
生きてほしいという言葉です。このことばに
もたくさん思い出が詰まっているんだなと
思いました

感想

僕が保護者の方のエピソードを見て思ったことは、さっき大久保先生が言っていたようにお母さん・お父さん（保護者）の方あ何回も息子に読み聞かせました、と書いてあったのでお母さん・お父さんの気を引く何か具体的にはキャチコピーがあるので何かしらお母さんお父さん絵本を買うということは、何かを伝えたいということなので絵本の伝えたいことをポップに書けばよいと思いました。「はじめてのおつかい」だと、保護者の方は、絵本を読んで実際に息子が「ママ僕も牛乳買いたい」や「一人で買えるかな」など絵本をもとに実際にやっていることが絵本の良いところだと思いました

感想

私は、100万回生きた猫を読んだ大人の感想を読んで「猫は自分以外の誰かを愛する事を知り、初めて生きる事の喜びと大切さを知る。そして、幸せや喜びを知ると同時に悲しみを知る。」と書いてくれた人と意見で、初めて黒猫が白猫を愛するようになり、

「私は、愛する人を探していたんだ」と、いうことに気づき初めていろいろな感情を出せるようになった黒猫、この人の最後の感想「喜びを知ると同時に悲しみをしる」というところが100万回生きた猫の本の深さを知ることができました

『ぐりとぐら』

私は、保護者の方々からのエピソードを見てこの絵本の最大の魅力は、大きくてふっくらとしたカステラだということを大人目線の視点からわかりました。この本を読んでカステラを作ってみたりして体験していることもわかりました。

また、他にも私が何回読んでもわからないようなことがで書かれていたりして新しい見方も生まれました。例えば、『ぐりとぐらの住んでいる世界が小さいときも楽しく見れて読みやすい』という世界観に関するエピソードがありました。

中でも私がお気に入りのエピソードは、『ぐりとぐらが動物だけとおしゃべりできる不思議な生き物で後ろの背景の絵があるだけで不思議な世界がわかりやすく自然に想像できた』というエピソードです。私もぐりとぐらの住んでいる森に入って森の動物たちと楽しく料理を食べてみたいなと思いました！このコメントもキャッチコピーや後ろの絵や背景に活かしたいです。

「感想」

やっぱりカステラは大人の人が子供の頃に読んでいてもでかくて大迫力ということで食べてみたいという希望があるということだと思いました。そして、やっぱり作っているときやなにかが起きているときにリズムがいい歌を歌っているところも印象に残っている人がいるということが納得できました。なぜなら、ぼくも印象にのこっているからです。また、絵が可愛いということもたしかにと思いました。それは、色をぐりとぐらでわけているということからだと思いました。

「絵本は物語だけでなく、昔の記憶や思い出も未来にしっかり紡いでいるのだと気付かされました。」 「どんなに悪いことをしても許してくれる母のやさしさを子どもたちに感じてほしい。」と書いてあったので、子供が「これ買って!!」というのではなくて、大人が懐かしいと感じて、買ってくれるというの也不错かなあと思いました。子供の頃に読んでもらったという記憶が今でも残っているということは愛されている本なんだなあと思いました。

どの本も保護者のみなさんが子供の頃からあって全員入炉な本の関わるエピソードがありました印象に残ったのは出産したお祝いで絵本を買ったというエピソードがあってこういうときにも、絵本というのは役に立つんだなと思いました。おしいれのぼうけんの感想も印象に残りました。「子供の頃押し入れで落書きをしてそこにはいれば世界に入れるんじゃないのか」という思い出実家に落書きが残っている」というエピソードが残っているというのが印象に残りました。おしいれのぼうけんで思ったのは書いた人が読んでくれる子供に伝えたかった思いがあるんじゃないかなと思いました。なぜなら、最後ねずみばあさんに、勝つ協力と勇気が伝わりました。